

被服行動の日タイ比較

(2016年11月11日受付；2017年2月12日受理)

平松 隆円[#]

東亜大学

Structuring of Clothing Behavior: A Comparison of Thai and Japanese

Ryuen HIRAMATSU[#]

Associate Professor, University of East Asia, Shimonoseki, Japan

Abstract

This research was conducted using a questionnaire survey involving 501 male and female university students in Japan and Thailand. It was made clear the structure of clothing behaviors. This analysis revealed five factors:

- 1) Fashion-consciousness,
- 2) Tendency to think much of function and amenity,
- 3) Interest to appropriateness for social situations and norm,
- 4) Practicing economy, and
- 5) Worthy using for both Japanese and Thai.

(Received November 11, 2016 ; Accepted February 12, 2017)

Key words: *clothing behaviors, Japanese, Thai, international comparison, university students*

(Journal of the Japan Research Association for Textile End-Uses, Vol.58, pp.512-517, 2017)

要 旨

本研究では、被服行動のなかでも購買と着装に注目し、タイ人の被服行動をあきらかにするため、日本人との比較調査をおこなった。501名の大学生（タイ人男子61名、タイ人女子239名、日本人男子89名、日本人女子112名）を対象に質問紙調査をおこなったところ、タイ人と日本人に共通して、『流行性』『機能性』『規範性』『価格性』『堅実性』の5因子があきらかとなった。

キーワード：被服行動、タイ人、日本人、国際比較、大学生

[#]Corresponding Author: E-mail: ryuenhrmt@toua-u.ac.jp

1. はじめに

ひとは、被服を身にまとして生活している。その理由は、身体のプロtectionだけにとどまらず、社会的・文化的な生活を送るうえで重要な、いくつかの役割を果たすためである。そんな、我々が日常におこなっている被服に関する行動は、購買(選択)、着(使用)、廃棄のすべてを含み、文化や社会、個人差といった様々な要因によって規定される。

たとえば、佐々木¹⁾によれば、被服に対する購買態度は、一般の商品全体に対する購買態度だけではなく、保守的・革新的といった生活態度や価値態度によっても規定される。

また、天野ら²⁾が着(使用)態度のタイプと被服行動特性の関係を検討したところ、ファッション情報への関心について、売り場の陳列商品を注意してみる、他人の服装をいつも注意してみるなど身近な情報への関心の高さが関連していた。また、着(使用)態度では着心地や肌触り、動きやすさ、場所柄を重視し、他人に不快感を与えない服装、清楚な服装を心がけ、服装は信用に関わるからおろそかにできないなど、社会性、容儀性が重視された。しかし一方で、異性に魅力的に見られるような服装がしたい、周りに縛られず自分の好きな服装をしたいといった意識も高かった。そして、着(使用)態度を『他者同調流行追随型』『おしゃれ軽視流行否定型』『個性重視流行積極型』『他者同調流行消極的型』の4つのタイプにわけ比較したところ、流行行動や購買行動、被服費などに差がみられた。

このような個人が示す被服行動の傾向を把握しようと、これまでに被服行動に関する尺度が作成されてきた。たとえば、Aiken³⁾やCreekmore⁴⁾が作成したものがある。また、日本における測定尺度としては、神山⁵⁾が作成した被服関心度質問表や、永野⁶⁾の被服行動尺度があり、様々な研究で使用されてきた。

近年、ファッションのグローバル化は雑誌やテレビなどの情報のみならず、海外ブランドの店舗や輸入、インターネットでの衣料品の購入などを通じて、積極的に展開している。だが、各国にはその国独自の衣生活が存在し、そこには異なる被服行動が存在すると考えられる。そこで本研究では、日本とタイの被服行動をあきらかにし、比較検討することを通じて、両国間の被服マーケティングへの寄与を試みたい。

なお、日本貿易振興機構(JETRO)⁷⁾がおこなった調査によれば、タイのアパレル市場規模は、2009年の年間販売額ベースで約3,547億バーツ

とされている。統計データのある1993年以降をみると、1993年から2003年までの10年間で約57%、金額にして、約1,222億バーツ増加しているという。また、タイの既製服輸入額は2009年には80億8,360万バーツであったとされる。国別の輸入元において、日本は中国・香港に次ぐ第3位である。今後、日本のアパレル企業がタイにおいて、より市場を拡大していくためには、タイ人の被服行動を理解することが必要である。

そこで本研究では、被服行動のなかでも購買と着(使用)に注目し、タイ人の被服行動をあきらかにするため、日本人との比較調査をおこなった。

2. 調査の概要

2-1 調査の方法, 調査時期, 調査対象者

バンコクにある国立大学に通学する学生と神戸市にある私立大学に通学する学生を対象に、質問紙調査をおこなった。

倫理的配慮として調査票に研究の目的、また回答は任意であり、無記名で個人が特定されないことを明記した。

タイ語の質問紙は、ネイティブ・レベルにタイ語を使用できる日本人大学院生が日本語の質問項目をタイ語に翻訳し、作成した。使用前に、複数のタイ人によって質問項目の等価性を確認した。

調査対象者はタイ人男子61名(平均年齢=20.08歳, SD=1.61)、タイ人女子239名(平均年齢=20.15歳, SD=1.13)、日本人男子89名(平均年齢=19.84歳, SD=1.65)、日本人女子112名(平均年齢=19.41歳, SD=1.23)であった。なお、第3の性に属する学生が19名いたが、分析からは除外した。

2-2 調査内容

1) 被服行動

被服行動の測定には、永野⁶⁾の被服行動尺度20項目を参考に、現代の若者たちに適した表現に改めて使用した。それぞれの項目について、自分自身にどの程度あてはまるかを「あてはまらない(1)」から「あてはまる(5)」までの5件法で回答を求めた。

2) フェイス項目

年齢と性別を回答させた。

3. 結果

3-1 被服行動の基礎統計量

まずは、被服行動の各項目の評定平均値をみてみたい(Table1)。

タイ人男子では、おおむね「丈夫で長持ちする服がよい」「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」「その場にあった服装というものは必要であるとおもう」が高く、「ファッション雑誌をよく読む」「衣服の衝動買いをする」「最新のファッションを着るようにいつも心がけている」が低い。一方で日本人男子では、おおむね「その場にあった服装というものは必要であるとおもう」「丈夫で長持ちする服がよい」「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」が高く、「ファッション雑誌をよく読む」「どのようなファッションがはやっているかについてよく知っている」「衣服の衝動買いをする」が低い。またタイ人女子では、おおむね「その場にあった服装というものは必要であるとおもう」「丈夫で長持ちする服がよい」「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」が高く、「衣服の衝動買いをする」「最新のファッションを着るようにいつも心がけている」「ファッション雑誌をよく読む」が低い。一方で日本人女子では、おおむね「手持ちの服との組み合わせを考えて買う」「不謹慎だと人におもわれる服装はしたくない」「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」が高く、「自分にとって高価な衣服は必要がないとおもう」「ファッション雑誌をよく読む」「華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ」が低い。

男女と国籍の違いによる差を検討するため、Scheffe による多重比較をおこなった。

その結果、「どのようなファッションがはやっているかについてよく知っている」(日本人男子<日本人女子: $p < .05$)、「手持ちの服との組み合わせを考えて買う」(タイ人女子<日本人女子: $p < .01$) (日本人男子<日本人女子: $p < .01$)、「最新のファッションについて知るために多くの店を見てまわる」(タイ人男子<日本人女子: $p < .01$) (タイ人女子<日本人女子: $p < .05$)、「衣服のデザインよりはそれを着たときの動きやすさを重視する」(日本人男子<タイ人男子・タイ人女子: $p < .01$) (日本人女子<タイ人女子: $p < .01$) (日本人女子<タイ人男子: $p < .01$)、「その場にあった服装というものは必要であるとおもう」(日本人男子<日本人女子: $p < .001$) (日本人男子<タイ人女子: $p < .01$) (タイ人男子<タイ人女子: $p < .05$) (タイ人男子<日本人女子: $p < .05$)、「どんなに気に入った服でも高ければ買わない」(日本人男子・日本人女子<タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子<タイ人男子: $p < .01$) (日本人女子<タイ人男子: $p < .05$)、「ファッション雑誌をよく読む」(タイ人男子<タイ人女子・日本人女子: $p < .001$) (タイ人男子<日本人男子: $p < .01$)、「華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ」(日本人男子・日本人女子<タイ人男子・タイ人女子: $p < .001$)、「いろいろなタイプの衣服に挑戦してファッションを楽しむ」(タイ人男子<日本人女子: $p < .05$)、「自分の着ている衣服が社会的にみてふさわしいものか

Table 1 被服行動項目の差(ANOVA)

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	
どのようなファッションがはやっているかについてよく知っている	3.03	0.14	3.22	0.07	2.85	0.12	3.38	0.11	4.10 *
不謹慎だと人におもわれる服装はしたくない	3.62	0.15	4.01	0.08	3.68	0.13	4.09	0.11	3.76 *
手持ちの服との組み合わせを考えて買う	3.85	0.15	3.54	0.08	3.51	0.13	4.14	0.11	7.73 ***
最新のファッションについて知るために多くの店を見てまわる	2.74	0.16	3.18	0.08	3.21	0.14	3.68	0.12	8.12 ***
衣服のデザインよりはそれを着たときの動きやすさを重視する	3.87	0.14	3.89	0.07	3.09	0.12	3.25	0.10	17.15 ***
その場にあった服装というものは必要であるとおもう	4.02	0.11	4.36	0.05	3.91	0.09	4.50	0.08	10.60 ***
どんなに気に入った服でも高ければ買わない	3.70	0.15	4.11	0.08	2.98	0.13	3.14	0.11	26.94 ***
ファッション雑誌をよく読む	2.02	0.16	3.00	0.08	2.78	0.14	3.03	0.12	11.12 ***
華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ	4.00	0.13	4.12	0.07	3.01	0.11	3.08	0.10	40.72 ***
ひとが場違いな服装をしているのを見ることは耐え難い	3.23	0.14	3.58	0.07	3.34	0.12	3.31	0.11	2.73 *
多少値段が高くて品質の良い衣服を選ぶ	3.11	0.13	3.04	0.07	3.41	0.11	3.34	0.10	3.64 *
いろいろなタイプの衣服に挑戦してファッションを楽しむ	2.80	0.15	3.27	0.08	3.04	0.13	3.47	0.12	4.74 *
保温性や通気性の良い服を選ぶ	3.62	0.12	3.49	0.06	3.41	0.11	3.30	0.09	1.65
自分の着ている衣服が社会的にみてふさわしいものかどうかをいつも考える	3.75	0.12	3.99	0.06	3.15	0.11	3.31	0.09	21.78 ***
衣服は安くてもよいから数多く持ちたい	3.23	0.14	3.66	0.07	3.20	0.12	3.41	0.10	5.43 **
衣服の衝動買いをする	2.30	0.15	2.57	0.08	2.96	0.13	3.52	0.12	19.47 ***
自分にとって高価な衣服は必要がないとおもう	3.57	0.15	3.64	0.08	3.04	0.13	2.80	0.11	15.79 ***
最新のファッションを着るようにいつも心がけている	2.56	0.16	2.98	0.08	2.94	0.14	3.45	0.12	7.34 ***
流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る	4.16	0.12	4.21	0.06	3.77	0.10	3.81	0.09	7.22 ***
丈夫で長持ちする服がよい	4.34	0.12	4.30	0.06	3.90	0.10	3.78	0.09	10.25 ***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Table2 被服行動の主成分分析

	1	2	3	4	5
	流行性	機能性	規範性	価格性	堅実性
最新のファッションについて知るために多くの店を見てまわる	0.84	0.07	0.11	-0.10	-0.03
最新のファッションを着るようにいつも心がけている	0.84	0.01	0.16	-0.05	-0.08
いろいろなタイプの衣服に挑戦してファッションを楽しむ	0.75	-0.02	0.07	-0.03	0.08
どのようなファッションがはやっているかについてよく知っている	0.72	-0.05	0.19	-0.13	0.02
ファッション雑誌をよく読む	0.62	0.24	0.11	-0.07	-0.16
衣服の衝動買いをする	0.57	-0.34	-0.14	-0.14	0.18
衣服のデザインよりはそれを着たときの動きやすさを重視する	-0.07	0.72	0.07	0.09	0.30
華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ	0.03	0.70	0.06	0.37	0.14
保温性や通気性の良い服を選ぶ	0.14	0.58	0.07	-0.15	0.29
不謹慎だと人におもわれる服装はしたくない	0.10	0.04	0.67	0.00	0.09
ひとが場違いな服装をしているのを見ることは耐え難い	0.03	-0.06	0.61	0.08	0.11
その場にあった服装というものは必要であるとおもう	0.23	0.02	0.57	-0.06	0.32
自分の着ている衣服が社会的にみてふさわしいものかどうかをいつも考える	0.00	0.39	0.56	0.19	0.05
手持ちの服との組み合わせを考えて買う	0.08	0.27	0.52	-0.01	-0.02
どんなに気に入った服でも高ければ買わない	-0.03	0.21	0.19	0.75	0.04
自分にとって高価な衣服は必要がないとおもう	-0.13	0.16	0.06	0.66	0.15
多少値段が高くても品質の良い衣服を選ぶ	0.25	0.10	0.21	-0.63	0.26
衣服は安くてもよいから数多く持ちたい	0.20	-0.19	0.02	0.56	0.44
流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る	-0.09	0.28	0.05	0.10	0.73
丈夫で長持ちする服がよい	-0.12	0.28	0.23	0.02	0.67
固有値	3.44	2.03	2.00	1.98	1.65
累積寄与率	17.18	27.35	37.33	47.24	55.49
α	0.83	0.65	0.61	0.62	0.63

どうかをいつも考える」(日本人男子・日本人女子<タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子・日本人女子<タイ人男子: $p < .05$)、「衣服は安くてもよいかから数多く持ちたい」(日本人男子<タイ人女子: $p < .01$) (タイ人男子<タイ人女子: $p < .05$)、「衣服の衝動買いをする」(タイ人男子・タイ人女子<日本人女子: $p < .001$) (タイ人男子<日本人男子: $p < .05$) (日本人男子<日本人女子: $p < .05$)、「自分にとって高価な衣服は必要がないとおもう」(日本人女子<タイ人女子: $p < .001$) (日本人女子<タイ人男子: $p < .01$) (日本人男子<タイ人女子: $p < .01$)、「最新のファッションを着るようにいつも心がけている」(タイ人男子<日本人女子: $p < .001$) (タイ人女子<日本人女子: $p < .05$) (日本人男子<日本人女子: $p < .05$)、「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」(日本人男子・日本人女子<タイ人女子: $p < .01$)、「丈夫で長持ちする服がよい」(日本人女子<タイ人女子: $p < .001$) (日本人女子<タイ人男子: $p < .01$) (日本人男子<タイ人男子・タイ人女子: $p < .05$)で、有意な主効果が認められた。

3-2 被服行動の構造

タイ人と日本人の被服行動の構造をあきらかにするため、評定平均値をもとに主成分分析(Equamax回転)をそれぞれおこなった。なお、因子の選定は、Kaiser-Guttmanによる最低固有

値1.0を基準とした。

その結果、タイ人と日本人の因子構造はほぼ同じ結果であったので、タイ人と日本人をあわせて同様に主成分分析をおこなった。その結果、5つの因子があきらかとなった(Table 2)。

第1因子は、「最新のファッションについて知るために多くの店を見てまわる」「最新のファッションを着るようにいつも心がけている」「いろいろなタイプの衣服に挑戦してファッションを楽しむ」などの項目が高く寄与したため、『流行性』($\alpha = 0.83$)と命名した。第2因子は、「衣服のデザインよりはそれを着たときの動きやすさを重視する」「華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ」「保温性や通気性の良い服を選ぶ」の項目が高く寄与したため、『機能性』($\alpha = 0.65$)と命名した。第3因子は、「不謹慎だと人におもわれる服装はしたくない」「ひとが場違いな服装をしているのを見ることは耐え難い」「その場にあった服装というものは必要であるとのおもう」などの項目が高く寄与したため、『規範性』($\alpha = 0.61$)と命名した。第4因子は、「どんなに気に入った服でも高ければ買わない」「自分にとって高価な衣服は必要がないとおもう」「多少値段が高くても品質の良い衣服を選ぶ」などの項目が高く寄与したため、『価格性』($\alpha = 0.62$)と命名した。第5因子は、「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」「丈夫で長持ちす

Table3 被服行動因子の差(ANOVA)

	タイ人男子		タイ人女子		日本人男子		日本人女子		F値
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	
流行性	2.67	1.04	3.00	0.91	3.05	1.07	3.32	0.91	3.67 *
機能性	3.92	0.80	3.82	0.70	3.18	0.88	3.27	0.96	13.03 ***
規範性	3.69	0.71	3.92	0.68	3.59	0.71	3.93	0.60	3.88 *
価格性	3.32	0.79	3.52	0.78	2.86	0.87	2.97	0.97	10.25 ***
堅実性	4.36	0.75	4.32	0.76	4.06	0.90	3.89	0.81	5.31 **

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

る服がよい」の項目が高く寄与したため、『堅実性』($\alpha = 0.63$)と命名した。

この5因子で簡便因子得点(各因子をより明確にするため、因子ごとに高く負荷する項目の得点を合計し、それをその項目数で除する方法)を算出し、以後の分析データとした。

3-3 被服行動の男女差

被服行動の各因子の男女と国籍による差を検討するため、Scheffeによる多重比較をおこなった。

その結果、『流行性』(タイ人男子<日本人女子: $p < .05$)、『機能性』(日本人男子・日本人女子<タイ人女子: $p < .001$) (日本人男子<タイ人男子: $p < .01$) (日本人女子<タイ人男子: $p < .05$)、『規範性』(日本人男子<タイ人女子: $p < .05$)、『価格性』(日本人男子・日本人女子<タイ人男子: $p < .001$)、『堅実性』(日本人女子<タイ人女子: $p < .01$) (日本人女子<タイ人男子: $p < .05$)で有意な主効果が認められた。

4. 考 察

被服行動の各項目を比較したところ、タイ人と日本人の男女で差が認められたのは、タイ人では「その場にあった服装というものは必要であるとおもう」「ファッション雑誌をよく読む」「衣服は安くてもよいから数多く持ちたい」であり、日本人では「どのようなファッションがはやっているかについてよく知っている」「手持ちの服との組み合わせを考えて買う」「その場にあった服装というものは必要であるとおもう」「衣服の衝動買いをする」「最新のファッションを着るようにいつも心がけている」であった。すなわち、日本人の方がタイ人に比べ、被服行動に差のある項目が多く、これら全てで女子の方が男子よりも高かった。国籍差が認められた項目がいくつかあり、男子では「衣服のデザインよりはそれを着たときの動きやすさを重視する」「どんなに気に入った服でも高ければ買わない」「華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ」「自分の着ている衣服が社会的にみてふさわ

しいものかどうかをいつも考える」「丈夫で長持ちする服がよい」でタイ人の方が日本人よりも高く、「ファッション雑誌をよく読む」「衣服の衝動買いをする」でタイ人よりも日本人の方が高かった。また、女子では「衣服のデザインよりはそれを着たときの動きやすさを重視する」「どんなに気に入った服でも高ければ買わない」「華美さよりは機能性を重視して衣服を選ぶ」「自分の着ている衣服が社会的にみてふさわしいものかどうかをいつも考える」「自分にとって高価な衣服は必要がないとおもう」「流行を追うよりも、気に入ったものを長く着る」「丈夫で長持ちする服がよい」でタイ人の方が日本人よりも高く、「手持ちの服との組み合わせを考えて買う」「最新のファッションについて知るために多くの店を見てまわる」「衣服の衝動買いをする」「最新のファッションを着るようにいつも心がけている」でタイ人よりも日本人の方が高かった。概して、男女ともタイ人の方が品質や機能が高く、華美さや流行は日本人の方が高かった。

日本貿易振興会(JETRO)⁸⁾が、バンコク都とバンコク都周辺のノンタブリ県、パトゥムタニ県、サムットプラカーン県でおこなった複数回答による調査によれば、ファッション製品を購入する際に価格(76.6%)が最も重視され、次いでデザイン・色(71.6%)が重視されていた。また、生地や縫製といった品質、機能性・着心地も過半数以上の割合で、購入のポイントとして重視されていた。ブランドの重視は21.6%と、相対的に低かった。また、ファッション製品の月額支出は2,000バーツ以下が55%で最も多く、4,000バーツ以下が全体の93%だった。すなわち、被服行動の項目で国籍差が認められた理由には、両国の平均賃金差が影響していることが推測される。バンコク首都圏の2011年の平均賃金は、およそ16,000バーツであり、家計に占める被服費は2.3%である。しかしながら、バンコク首都圏以外の地方における平均賃金は10,000バーツ以下であり、当然ながら被服費に費やされる金額は減少する。今回の調査対象

者は学生であった。社会人を対象とした日本貿易振興会 (JETRO) の調査よりも、被服費に費やされる金額はさらに低いことが推測される。というのも、学生たちがバンコク市内の世界展開するファストフード店でアルバイトをした場合の時給は45 バーツ程度である。そのため、本研究においてもタイ人の方が日本人よりも、価格や品質に関する項目が高かったと推測される。実際、1,000 バーツを超える被服を購入する学生もいないわけではないが、若者たちが集うサイアムスクエアをはじめとする繁華街などにある露店で販売される被服の主要価格は250 バーツ前後である。

日本人とタイ人の被服行動の構造を検討するため、主成分分析をおこなったところ、共通して『流行性』『機能性』『規範性』『価格性』『堅実性』の5因子があきらかとなった。

永野⁶⁾の被服行動尺度では、『流行性』『機能性』『適切性』『経済性』の4つの因子があきらかとなっているが、『適切性』は本研究における『規範性』と対応するものであり、『経済性』は本研究では『価格性』と『堅実性』にわかれる結果となった。仮説として、各国にはその国独自の衣生活が存在し、そこには異なる被服行動が存在すると考えたが、被服行動の構造そのものは日本人とタイ人で共通するものであった。なお、被服行動の各因子について、タイ人と日本人で男女差が認められた因子はなかった。しかしながら、概して男子では『機能性』と『価格性』でタイ人の方が日本人よりも高く、女子では『機能性』と『堅実性』でタイ人の方が日本人よりも高かった。このことから、被服行動では男女による性差ではなく、所属する社会や文化、賃金といった生活環境などが影響していると推測される。

5. まとめ

本研究では、被服行動のなかでも購買と着装に注目し、タイ人の被服行動をあきらかにするため、

日本人との比較調査をおこなった。その結果、タイ人と日本人に共通して、『流行性』『機能性』『規範性』『価格性』『堅実性』の5因子があきらかとなった。

今後は、それぞれの因子の得点が現実の被服行動をどの程度反映しているのかという妥当性に関する検討が必要である。また、自意識や他者意識といった被服行動を規定することがあきらかとなっている個人差要因との関連性の検討も必要である。さらには、調査対象者の世帯年収、可処分所得、アルバイト状況などを調査することで、被服をめぐるより具体的な消費行動をあきらかにしたい。

参考文献

- 1) 佐々木土師二：購買態度の情緒性と合理性に関する新尺度・erc scale の提案と構造分析、関西大学社会学部紀要、15(2):25-44(1984)
- 2) 天野好野・白井佐代子・中川早苗：勤労者のライフスタイルと被服行動に関する調査研究(第1報)、家政学研究、37(2):86-96(1991)
- 3) Lewis Aiken: The Relationship of Dress to Selected Measure of Personality in Undergraduate women, Journal of Social Psychology, 59: 119-128 (1963)
- 4) Anna Creekmore: Methods of Measuring Clothing Variables, Michigan Agricultural Experiment Station Project, Michigan State University: 96-101 (1971)
- 5) 神山進：被服関心の概念とその測定・ギュレルの研究の追試、織消誌、24(1):35-41(1983)
- 6) 永野光朗：被服行動尺度の作成、織消誌、35(9):14-19(1993)
- 7) 日本貿易振興機構：タイのアパレル市場に関する動向調査(2011)
- 8) 日本貿易振興機構：バンコクスタイル(2013)